長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１５９

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和６年２月２６日(月)

私の中学校時代「体育大会と学習発表会」

中学校では運動会の雰囲気もガラリと変わり、名前も体育大会に変わります。更には文化祭（学習発表会）加わり、生活にも充実感が増してきます。

私の通った熊本市立楠中学校では、当時の体育祭と文化祭は交互に行われるシステムで、１年、３年の時が文化祭、２年の時が体育祭でした。１年生の時はあまり印象にない文化祭ですが、２年の体育祭、３年の文化祭は自分達で作ったという充実感がありました。体育祭は２００ｍ走とリレーの学級代表に選ばれ、まさに自己満足の世界ですが、とても優越感に浸った体育祭でした。３年時の文化祭で私の学級は何故かミュージカル「白雪姫」を披露することになり、私は毒リンゴを白雪姫に渡す魔法使いのおばあさん役でした。白雪姫のミュージカルが終わった後、時間が余っていたのでもう一度上演かと思われたのですが、当時流行っていた長渕剛の歌を友達のギターに合わせて、魔法使いの格好で歌った私なのでありました。さすがにこの写真はありませんが、今だったらビデオとかに残されるのでしょうね、なくてよかった。

体育大会と学習発表会の思い出ですが、とにかく「自分で楽しもう！」「自分で頑張ろう！」という気持ちがあれば、中学校生活は充実し、充実すれば楽しいということにもつながると言えるのではないでしょうか。私は中学が最も楽しい学生時代でした。本校６年生にも是非、中学時代を謳歌してもらいたいものです。

卒業前雑感　「素直さ」

学力や体力、スポーツや習い事等のテクニカルスキルを向上させるために必要なことは何かと聞かれて、私はこう答えます。「指導や指摘を素直に受け入れること」

最近になって思うのですが、人は年齢が上がるにつれて色々な事に自信をもてるようになるのですが、それはそれで必要なことではあります。しかし、自分の考えや行動を絶対だと思い込み、周りからの指摘や指導に耳を傾けられなくなることがよくあるように思います。「初心忘るべからず」。私達のように閉鎖性に強い現場にいると、時間に比例して頭が固くなっていくことがあります。それに気付かないと壁に打ち当たったり、思い通りにいかなかったりすると、言い訳をしたり、責任を他に転嫁したりします。ましてや私達はプロの教師ですから、できる限り責任の矛先を自分に向けなければなりません。そこで、原因を素直に見る、受け入れることができれば、解決の糸口が見えてきます。

私が、これまでに担任をさせて頂いた子供達の活躍ぶりを見ていて感じることは、大人の指導を素直に受け入れ、真摯に泥臭く努力することができる子供達が、夢を実現させているような気がします。逆に、夢をあきらめざるを得なくなった子供達はどうだったろうかと考えた時、やはり思い浮かぶのは「素直さの欠如」と「責任転嫁」です。そして、「どうせ俺は…」「私はちゃんとやっているのに…」と、やる気を無くしていきました。逆に夢を諦めざるを得なかった子供達の中にも、素直さを取り戻し、責任の矛先を自分に向けた子供達は、新しい道をしっかり歩んでいるようです。

６年生はこれからの３年間をどう過ごすか、少なからず将来に影響を与えることになります。自分を考える良い機会です。

シリーズ「自分を語る」#１５９

６月の初め、２カ月の休校期間が過ぎて、やっと中島小学校で子供達との出会いの時です。待ちに待ったという言葉がピッタリの出会いでした。いよいよ始まるという緊張感もあったのですが、１学期のスタートが６月始めなので短い１学期となります。しかし、授業時数や進度を稼ぐために７月末まで１学期が延長され、不思議な感覚で１学期を過ごしました。

着任から２カ月の間、驚くことが幾つもありました。４月１日の事です。

辞令交付式の後、中島小学校に到着して教頭先生の案内で校長室に入りました。その時、真っ先に渡されたのがｉＰａｄでした。もともと熊本市はＩＣＴ教育の先進的な地域で、タブレット端末を使うことが当たり前になっていました。しかもコロナ禍の真っ最中で、緊急事態宣言や県独自の宣言が出されるなど、外出が憚られる状況の中でしたから、タブレット端末による遠隔会議は画期的なものでしたし、感動しました。私は、バリバリのアナログの世界からＩＣＴ先進地域に投入されたのですから、中々のカルチャーショックでしたね。「ズームで会議？なんのこっちゃ？」って具合でしたね。

２つ目の驚きは、熊本市内の学校数の多さによるカルチャーショックです。小学校だけでも確か９０校以上あったのではないでしょうか。中島小学校は西区にありましたので、西区校長会というのがあってその中で活動をすることになりました。しかし、市内の校長会の会議の時は、大きな会場に百数十名に及ぶ校長先生方が集まるのです。新任校長の私は初めの頃は萎縮してしまって（今でもですが…）、いつもそそくさと逃げるように会場を後にしたものです。でも、西区の校長会には私が５名市内で教諭として勤務していた頃お世話になった先生がいらっしゃって、お会いした時はうれしくてですねぇ。その後は精神的な支えにもなって頂き、色々と相談させて頂きました。また、熊本市内の新任校長先生の中に、高校時代の同級生が２人いたことにも驚きました。２人とも同じクラスになったことがあり、どんな生徒だったのかも知っている仲です。さすがに辞令公式の時、お互いに「お前が校長？」なんて、笑い合ってしまいました。彼らとはたまに連絡を取るのですが、業務に関係のない話に花が咲くこともあり、楽しい時間となっています。また、困ったときの相談相手になる等、やはり友人は大事にしなければならないと改めて思った事でした。

話をもとに戻しまして、休校明け６月の初めが子供達との初めての出会いです。私は全てが初めての経験で緊張感をもって始業式を迎えたのですが、心配も杞憂でした。人懐っこい子供達は、始業式前から声を掛けてくれました。中島小学校は周辺を田んぼや畑に囲まれていて、全てがゆっくりとした時間軸で回っているような感じですが、その中で伸び伸びと育まれた子供達だからこそ、こんな反応を示してくれるのだなと実感しました。

式が終わり、担任発表。新しい担任の先生と新しい仲間たちと一緒に、新しい目標に向かって進み始めます。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）